



方広寺(ほうこうじ)は、京都府京都市東山区にある天台宗の寺院。通称は「大仏」または「大仏殿」。豊臣秀吉が発願した大仏(盧舎那仏)を安置するための寺として木食応其によって創建された。豊臣秀吉は天正 14 年(1586 年)に、松永久秀の焼き討ちにより焼損した東大寺大仏に代わる大仏の造立を発願。当初は東山の東福寺南方にある遣迎院付近に造立する予定で、小早川隆景を普請奉行とし、大徳寺の古溪宗陳を開山に招請した。大仏と大仏殿の造立はいったん中止され遣迎院の移転も途中で中止(おかげで遣迎院は南北に分立)された。のち天正 16 年(1588 年)に、場所を蓮華王院北側にあった浄土真宗・佛光寺派本山佛光寺の敷地に変更して再開(佛光寺は秀吉の別荘「龍臥城」のあった現在地へ移転)した。秀吉は大規模工事に巧みであった高野山の木食応其を造営の任にあたらせた。大仏殿は鴨川東岸地区を南北に貫く大和大路に西面して建てられ、また大和大路の西側には秀吉の手により伏見街道も整備され、さらに秀吉は五条大橋を六条坊門に移し京外への出口とするとともに大仏への参詣の便とした。小田原征伐を挟んで天正 19 年(1591 年)5 月に大仏殿の立柱式が行われ(言経卿記)、文禄 2 年(1593 年)9 月に上棟(多聞院日記、三宝院文書)、文禄 4 年(1595 年)に完成を見た。同年 9 月 25 日には秀吉自身の祖父母の供養のため寺内の南北 15 間東西 21 間の巨大な経堂で千僧供養会を行った。天台宗、真言宗、律宗、禅宗、浄土宗、日蓮宗、時宗、浄土真宗(一向宗)の僧が出仕を要請された。千僧供養は以後豊臣家滅亡まで、毎月行われた。千僧供養に出仕する千人もの僧の食事を準備した台所が、妙法院に残る。当時の敷地は広大なもので、妙法院はもちろん、現在の豊国神社、京都国立博物館、そして三十三間堂の敷地をも含むものであった。現在の方広寺、豊国神社から国立博物館西側に見られる巨大な石を積んだ石垣はかつての大仏殿の石垣であり、また三十三間堂南に遺る太閤堀(重文)や南大門(重文・豊臣秀頼が築造)も方広寺造営の一環として整備されたものである。

(略)



0001\_方広寺



0002\_方広寺



0003\_方広寺



0004\_方広寺



0005\_方広寺



0006\_方広寺



0007\_方広寺



0008\_方広寺



0009\_方広寺



0010\_方広寺



0011\_方広寺



0012\_方広寺



0013\_方広寺



0014\_方広寺



0015\_方広寺



0016\_方広寺



0017\_方広寺



0018\_方広寺



0019\_方広寺



0020\_方広寺



0021\_方広寺



0022\_方広寺



0023\_方広寺



0024\_方広寺



0025\_方広寺



0026\_方広寺



0027\_方広寺



0028\_方広寺



0029\_方広寺



0030\_方広寺



0031\_方広寺



0032\_方広寺



0033\_方広寺



0034\_方広寺



0035\_方広寺



0036\_方広寺



0037\_方広寺



0038\_方広寺



0039\_方広寺



0040\_方広寺



0041\_方広寺



0042\_方広寺



0043\_方広寺



0044\_方広寺



0045\_方広寺



0046\_方広寺



0047\_方広寺



0048\_方広寺



0049\_方広寺



0050\_方広寺



0051\_方広寺



0052\_方広寺



0053\_方広寺



0054\_方広寺



0055\_方広寺



0056\_方広寺



0057\_方広寺



0058\_方広寺



0059\_方広寺



0060\_方広寺



0061\_方広寺



0062\_方広寺



0063\_方広寺



0064\_方広寺



0065\_方広寺



0066\_方広寺



0067\_方広寺



0068\_方広寺



0069\_方広寺



0070\_方広寺



0071\_方広寺



0072\_方広寺



0073\_方広寺



0074\_方広寺



0075\_方広寺



0076\_方広寺



0077\_方広寺



0078\_方広寺



0079\_方広寺



0080\_方広寺



0081\_方広寺



0082\_方広寺



0083\_方広寺



0084\_方広寺



0085\_方広寺